



NEWS LETTER No.23

調査研究進捗特集

本年度もコロナ禍の中、感染症対策をしながら多数の調査研究が進められています。今回は、研究調査の一部をお伝えいたします。

■京都市左京区「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」

センターでは、京都市左京区役所とともに、地域貢献型特別研究（府大ACTR）「中山間地域における地域コミュニティの核としての伝統的祭礼・行事の継承に係る調査研究」として、7～8月にかけて、伝統行事の保存会の皆様に聞き取りを行いました。

2020年から2021年にかけての新型コロナウイルスの感染拡大は、伝統祭礼・行事の開催に大きな影響を与えました。聞き取りでは、開催の可否の判断に苦慮される声が多く、その背景には、一度中止や延期の判断をした場合、伝統行事の技術の継承や原材料の調達が途絶えてしまい再開が難しくなるという伝統行事に固有の事情も拝察されます。そうした時代の変化を踏まえつつ、地域内外の関係者とつながりながら伝統行事を続けている様子をお聞きしました。（代表者：上杉和央文学部歴史学科准教授（センター統括マネージャー）・メンバー：鈴木上席研究員、長田研究員、今堀研究員ほか）

久多松上げ保存会
周辺の様子



広河原松上げ周辺



花背松上げ使用



KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。共同研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel : 075-703-5390
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP : https://kirp.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町
1-5 7号館 1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS



■精華町「次期総合計画策定支援業務」(受託)

【京都府精華町小学校での地域のマップづくり】

センターでは、精華町の次期総合計画づくりのお手伝いをしています。11月に山田荘小学校にて4年生を対象にした、まちあるき×GIGAスクール端末を使ったマップづくりを行いました。

文学部歴史学科文化遺産コース（地理ゼミ、建築ゼミ）の学生とマップ作りの下見のために、校区内の各地区を回り、地域のお宝さがしをしました。そして、「お宝ヒント集」を学生とともに作成し、小学生とのまち歩きを行いました。



精華町まち歩きの様子



精華町まち歩きの様子

■京丹後「京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化」

【砂方海水浴場、小天橋・葛野浜海水浴場、久僧海水浴場ほか】

7月～11月（11月には夕日ヶ浦の夕陽が沈むシーンを撮影できました。）にかけて、京丹後の海水浴場において、公共政策学部と生命環境学部の学生の協力も得ながらデータ収集を行いました。来年度に公開予定のPR動画用の映像を撮影したり、海底地図を作成するための水深測定などを実施しました。時には雨が降り出すような天気もありましたが、それでも十分美しい姿を見せられました。場所によっては、ロングビーチのため機材を運ぶだけでも大変でしたが、京丹後市役所観光振興課の皆さんにいろいろ協力いただき、順調に進めることができました。

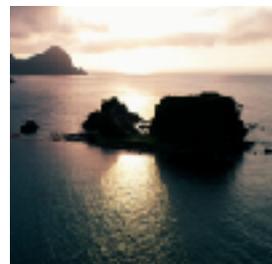
（代表者：岩崎雅史生命環境学部准教授（センターデータサイエンスアドバイザー）・メンバー：藤原公共政策学部准教授（センター企画調整マネージャー）、今堀研究員ほか）



上段：砂方の中から 下段：小天橋の上空から



久僧の上空から



ACTR 「土えのぐと活版印刷」

「京の“ほかすモン”をいろいろに変えて新しい“京”を表現する」

「土えのぐと活版印刷ワークショップ」が京丹波町の旧質美小学校にて開催されました。

参加者は土から作ったオリジナルの土えのぐを使って、絵で描いた後、活版印刷で言葉を入れ作品を作成されました。

自分でえのぐを作る作業や活版印刷の体験は、日常生活ではあまり経験できないことであり、参加者はそれぞれの作業を楽しんでいました。3日間のワークショップで23名の参加があり、全作品46点を会場に展示されました。（代表者：生命環境科学研究科 細矢憲教授）



ワークショップの様子

久御山

「久御山町の「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく町内会・自治会の活性化戦略ビジョンの提案」



ワークショップの様子

久御山町「自治会の活性化戦略ビジョンのための調査研究」をしています。10月には、自治会の現状把握のために4つの自治会を回りお話を伺いました。そして11/23に久御山町役場ホールにて、これまでに調査した自治会長アンケート

・1000人アンケート・先進事例調査についての学生報告と自治会長ワークショップを開催しました。ワークショップでは、防災・防犯、自治会運営などをテーマに意見交換が行われ20名程度ご参加いただきました。（代表者：公共政策学部藤原准教授、青山名誉教授、生命環境学部岩崎准教授、今堀研究員ほか）

「丹後ちりめんデジタルアーカイブ」

300年の歴史をもつ丹後ちりめん。その歴史を伝える文献やモノ資料は丹後各地に多く残されていますが、その多くは人目に触れずひっそりと存在しているに過ぎません。価値は高いと推定できるものの、アクセスしづらいことから、多くの目線からの評価がされていませんでした。

そこで、資料のデジタルアーカイブ化を図り、多くの方々と共有するためのプロジェクトが始動しました。その成果の一部をオンラインにより発表されました。

主催：こまねこまつり実行委員会、京丹後ちりめん祭実行委員会

協力：丹後織物工業組合、京都府立大学、福知山公立大学



「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」

京丹後市湯舟坂2号墳（府指定史跡）発掘調査から今年で40年が経ち、地元の久美浜町須田区、京丹後市教育委員会、そして京都府立大学を中心として「湯舟坂プロジェクト」が進められてきました。

新型コロナウイルスの影響で残念ながら地元で予定されていた古墳まつりは中止となりましたが、学生たち（京都府立大学文学部考古学研究室）によって昨年度ACTRで撮影した写真を使った絵葉書が作成されました。（代表者：文学部歴史学科諫早准教授）



作成された絵葉書

COC+地域創生人材育成プログラム

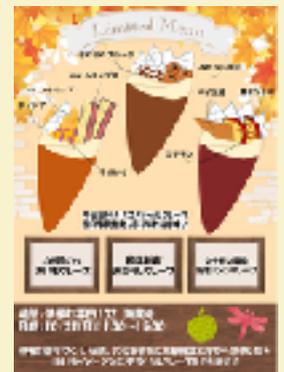
クレープ屋から見た伊根の観光（地域創生フィールド演習）

私たち2回生3名は、京都府与謝郡伊根町にて1泊2日のフィールド演習を行いました。1日目は伊根のまちを海から山まで訪れ、伊根の魅力を存分に知りました。2日目は漁港見学や、演習のメインとなるクレープ屋のお手伝いを行いました。クレープ屋の演習は事前にオリジナルメニューを考案し、チラシを作成した上で臨みました。考案したメニューは地元の方から観光客の方まで多くの方にご好評をいただきました。

演習を通して、私たちは地元の方々のつながりの強さや温かさ、伊根の暮らしの素晴らしさと大変さなど、多くの気づきをえました。中でも一番強く感じたのは地元の生活の場と観光の場が入り交じっており、その一方で観光客の行く場所は伊根の魅力のほんの一部に限られてしまっているということです。持続可能な観光とは何か？伊根の暮らしと産業を守りながらまだまだ知られざる伊根の魅力を知ってもらう方法を考えることが重要だと感じました。（2回生：欧米言語学科/木村優季・石村愛莉、環境デザイン学科/藏谷千草）



伊根町の舟屋



クレープ屋さん

